

やしき いせき はやち ねさん みなもと ひえぬきがわ なか いがわ
屋敷遺跡は、早池峰山に源を発する稗貫川が、支流の中居川と
おおはさまち ちゅうしんがい りんせつ

合流する大迫町の中心街に隣接しています。昭和 62 年の発掘調査
こう きまつ ばん き えいらくつうほう
において縄文時代後期末～晩期の多くの遺物とともに、永楽通宝
ともな ちゅうせい たてあなたてものあと とう
などを伴う中世の竪穴建物跡 1 棟が確認されています。

平成 17 年、遺跡内に大迫保育園が新築移転されることになり、
じ ぜん
事前の発掘調査が行われました。その結果、中世の竪穴建物跡 5 棟、
ほったてばしらたてものあと けんしゅつ きんせいしょう とう
掘立柱建物跡 3 棟などが検出され、中世末期から近世初頭頃の陶
じ き と い し もくせいひん
磁器や砥石、木製品などが出土しました。掘立柱建物跡は、屋敷
やしき なかみち そ
遺跡の中央を通る「屋敷の中道」という道路に沿って並んでいま
とおの かいどう でんしょう
したが、この道は中世の遠野街道といわれています。伝承では、
ここのかまち まち ば
ここに「九日町」という中世の町場があり、今から約 400 年前の
げん な なん ぶ としな お うつ
元和 3(1617) 年に南部利直によって現在の大迫三町に移されたと
言われています。このことは、屋敷遺跡から出土した陶磁器の多
しょうめい
くが 16 世紀後半から 17 世紀前半のものであることなどから証明
されました。伝承

と発掘調査の結果
きわ
が一致した極めて
まれ じれい
稀な事例となっ
ています。



第 1 号掘立柱建物跡全景 (2005 年調査)